

支所だより

東予・丹原・小松の各総合支所管内での、身近な出来事や話題などを紹介するコーナーです。

東予総合支所

〒799-1394 周布349番地1 TEL0898-64-2700 FAX0898-65-4363

夢は、オリンピック・リオデジャネイロ大会
～ラグビーボールに懸ける熱い思い～

2016年にリオデジャネイロで開催される夏季オリンピック大会で、女子7人制ラグビー（セブンズ）が正式種目として採用決定されたことから、日本代表選手の強化・育成が着々と進められています。

今年4月に埼玉県で開催された「全国高等学校選抜女子セブンズ大会」には「愛媛ラグビーセブンズ」が出場しました。その主力メンバー、東予高校3年生の平井久留美さんは同校ラグビー部20人の紅一点、男子部員に混じり黙々とトレーニングに励んでいます。

平井さんは4人兄弟の末っ子で、中学ではバスケットボール部でしたが、兄3人とも同高校のラグビー部OBであるという恵まれた環境と球技を続けたいとい

う思いから、ラグビー部への入部を決めたそうです。

この8月には、オリンピックへの人材発掘のため、全国から100人規模で選手を招集して「全国高等学校女子7人制ラグビー大会」が長野県で開催され、平井さんも四国チームの一員として奮闘してきました。

東予高校ラグビー部の顧問であり「愛媛ラグビーセブンズ」のコーチでもある門田晋也先生は「平井さんには将来の日本を背負って立つ代表選手になってもらいたいとの意気込みで、共に汗をかいています」と話していました。



愛媛ラグビーセブンズ
(前列左から3番目が平井さん)

丹原総合支所

〒791-0592 丹原町池田1733番地1 TEL0898-68-7300 FAX0898-68-4769

巨大瓢箪と瓶入り瓢箪
～さまざまな瓢箪を楽しむ～

丹原町兼久集会所の近くで、胴回り145cmの巨大瓢箪が作られました。作者はNPO法人全日本愛瓢会本部理事・県支部長の安倍勉さん。「来年は愛媛県で全国大会を開催するので、大瓢エースという品種を育てて



小学生より大きい瓢箪

います。収穫後は田に穴を掘りビニールシートを敷き、水に漬けて内部を腐らせ種を抜きます。品種に応じた育て方を工夫し、手間暇かけないと良いものではありません。大きいのも良いが、小さいものも可愛い」と安倍さん。5cmほ

どの豆瓢も作られています。

かたや、瓶入り瓢箪。くびれに赤い紐を結んでいます。一体どうやって作ったのでしょうか。作者は湯谷口に住む茅原重信さん。25年前から88歳となる現在まで技術を磨いてきました。瓶の中で育て種を抜き、紐を結ぶのは至難の業。他にもみんなが驚くような作品を作って、知人にプレゼントしてきました。「飾ってもらえる瓢箪は幸せ者よ。曲がったものは、それで愛嬌がある」と茅原さんは目を細めます。合併以前にひょうたんカーニバルを開催していた丹原町では、今も多くの方が瓢箪をこよなく愛し、手間暇かけて育て、精魂込めた工芸品を作っています。



瓢箪工芸品でも珍しい瓶入り

小松総合支所

〒799-1198 小松町新屋敷甲496番地 TEL0898-72-2111 FAX0898-72-4048

地域を育てる用水
～地域の水を大切に！～

去る8月18日、小松町妙口一番堰水路で、魚のつかみどりが開催されました。

これは、地域の皆さんが水や魚等にふれることで地域の自然環境のよさや自然を大切にすることを身に付けてもらうとともに、農業用水のもつ地域用水としての機能を学んでもらおうと、毎年、夏休み期間中に妙口土地改良区が実施しているものです。今年は、妙口上・下・原3地区の愛護班から親子約45人が参加しました。



はじめに、妙口土地改良区の ゆっくり追い込み…

松井茂理事長が、農産物や生物そして私たちの生活にとって農業用水が果たす役割や水の大切さをわかりやすく説明。その後、水路を3カ所堰き止め、アメゴ、マスを放流。子どもたちは大きな歓声をあげながら水路に入り、素早く逃げる魚に苦戦しながらも水路の端に追い込み、上手に素手でつかみとっていました。

妙口土地改良区の方々は「より多くの子どもたちに地域を育てる用水のことを知ってもらうためにもこの行事は続けていきます」と力強く語ってくれました。



たくさんの魚をGET! 自然豊かな地に生まれたことに感謝し、この自然を守り育てていくのが私たちの使命ではないでしょうか。水の大切さについて今一度考えてみましょう。

自然豊かな地に生まれたことに感謝し、この自然を守り育てていくのが私たちの使命ではないでしょうか。水の大切さについて今一度考えてみましょう。